



● PROFILE ●
 西尾 優人(ニシオ マサト)
 1986年10月22日生まれ
 大宮北高等学校出身
 身長：168cm
 体重：62kg
<http://mnishio.basketballnavi.com/>

西尾優人

Masato Nishio

INTERVIEW 02

(取材・構成 定山 敬)

語学として絶対必要なのは英語です

——最初の質問ですがドイツでプレイされたのはいつですか？

高校2年生(2003年)の夏に短期留学みたいな形でキャンプに参加して、2005年の8月から4月の終わりまで1シーズン間ケムニッツ(Chemnitz99ers。ドイツのザクセン州ケムニッツに本拠地を置くクラブチーム)でのBチームでプレイしていました。プレイと同時にトーステン・ロイブルさん(現トヨタ自動車アルバルクHC)にコーチングも教わっていました。そこでFIBAのC級のコーチライセンスも取得しました。日本と異なり試験を兼ねた面接があって、コーチングのことやスポーツ科学について聞かれたりします。筆記試験もあり、そのあと1時間半のチーム練習を見てその動きを正しく説明出来るかを問われたりしました。

——Bチームということですが、練習生のような感じと考えるとよいのですか？

はい。そうです。ただ(怪我などで)Aチームの(1軍)メンバーが揃わないときには、1軍と同じ練習させてもらったり常に同じ環境で練習していました。でもまだまだ足りないと感じることが多かった

——出身の大宮北高校にも行ったのですがみんな礼儀正しいし良い子ばかりで感心しました。

ありがとうございます。佐藤(光志)先生は本当に良いコーチです。基礎を重視していますし、5人が同じプレイ出来る様に指導してくれました。先生から身体能力だけに頼るのではなく基礎を習ったら必ず良い選手になれると思っています。

——ホームページやブログは持っていますか？ パソコンとかにあまり興味なし？

全く詳しくなくて。興味はありますね。

——特にヨーロッパのバスケットを知っている人は少ないと思うので、こちらでブログ作りましようか？

はい。是非お願いします。

——今日は忙しいところどうもありがとうございました。

——こちらこそありがとうございました。

——という訳でインタビュー時に出た約束から西尾優人選手のブログを作ることにしました。貴重な経験も持つ西尾優人選手のブログにも注目して下さい。

日本で昨年の8月世界選手権が行われ、改めてヨーロッパのバスケットに注目が集まる形となったが、実際にプレイした経験を持つ人は少ない。トーステン・ロイブル(現トヨタ自動車アルバルクHC)に見初められ、ドイツのケムニッツ99ers(トヨタ自動車の齋藤豊選手や埼玉ブロンコスの水野耕介選手も在籍していたことがある。)で武者修行した西尾優人選手にインタビューを試みた。

の流れを変えることだと。試合のテンポをアップさせたり、自分のような小さい選手が逆にリバウンドに飛び込んでみせてチームの士気を高めたり。1試合で20点も取れることは出来ないですし、仮に取れても10点取れば良いほうです。

——プレイタイムも大体15分から20分くらい？

——そうですね。25分もらえれば良いほうですね。大体20分くらいです。

——海外特にヨーロッパでプレイしたことがある人が少ないのですけど日本との違いはなんですか？

——日本とドイツは似ているのかもしれないのですけど才能のある選手が他のプロスポーツに流れていくので、決して身体能力の高い選手が集まるわけではないのです。だからドイツでは基礎を非常に重視しますね。その基礎を大切にしてきたからこそ、今のドイツはヨーロッパでも強豪になっていると思っています。

——ドイツで一番印象に残っていることは？

——プレシーズンゲームで3ブロックされたことです。クイックネスには自信があったのですけど。完全に相手を抜き去ってレイアップシュートしたのにブロックされ、二回目も振り切ったつもりでもやはりブロックされ、最後は速攻でのノーマークシュートを後ろから叩かれショック

ら。語学として絶対必要なのは英語ですね。日本のコーチも英語をもっともっと話せるようにならないといけないと痛感させられました。

小さいなら小さいなりの戦い方がある

——進路について

——4月から大学に進学します。

——勿論プレイは続ける？

——はい。選手として大学でもプレイします。ただ体格が小さいですし、ドイツに居たときもコーチングを学んでいたのが将来的にはコーチになりたいと思っています。

——先ほど話が出たFIBAのコーチライセンスA級をとりたい？

——はい。ヨーロッパのトップクラスのヘッドコーチはみんなA級だと思うのです。まだまだ雲の上のような話ですけど、A級取れるようにがんばりたいと思います。

——体格の話も出たので聞きたいのですがドイツで体格の違いを感じました？

——そうですね。バスケットの場合、小さいということはそれだけでマイナスポイントだと思います。コートに一人だけ小さい選手がいると身長差のミスマッチとかを狙われますし、ドイツに居たときはとてもじゃないけど40分間フルにプレイ出来ないと思えました。出来ることは試合

です。

——ドイツの生活面についてお聞かせください。普段の生活はどんな感じだったんですか？ 寮生活でしたか？

——いえ、ケムニッツのジェネラル・マネージャーがともよい人ですの上大きな家だったのでそこにホームステイのような形で生活していました。

——西尾さん以外にも何人もの選手と一緒に住んでいたのですか？

——いえ、自分ひとりだけです。

——トーステン・ロイブルについての印象は？

——常に前を向いている人ですね。見えていて飽きない人です(笑) 幅広いというかバスケットだけではなく色々な事において。

——トヨタの練習を見学した時の印象では物静かな人だったのですが。そんなことないですよ。指導員として高校に教えに来てくれた時とかアグレッシブでしたし。冗談も結構言いますよ。

——会話はドイツ語？

——英語です。何故かという日本の実業団と同じでアメリカ人選手が二人在籍しているのと、ヨーロッパの他国の選手との共通言語として英語で話していました。トーステンさんも英語は流暢ですし、アシスタント・コーチもアメリカ人でしたか